

## 構成的グループ・エンカウターの実施経験が若手教師に与える影響 ～ 子どもへの効果と教師への効果との関係 ～

岩田将英

葛西真記子

(千葉県柏市立柏第一小学校) (鳴門教育大学大学院臨床心理士養成コース)

### 〔目 的〕

学校現場において構成的グループ・エンカウター(以下、SGE)が広まっている。筆者の経験から、SGEの実施は子どもだけではなく、教師にも有益な効果があると考えられる。子どもたちへの効果は数多く報告されているが(e.g. 河村, 2001), 教師への効果については朝日(1996), 大関(2001), 藤村(2004)があるものの実証的な研究はない。筆者らは先にSGEを実施した教師に現われる効果を測定する尺度(「学校に特化した構成的グループ・エンカウターのリーダー効果尺度」; 以下, 「SSLE 尺度」)の作成をおこなった(岩田・葛西, 2007)。この尺度は、26項目からなり現職教師234名を対象とした予備調査から、「教育に対する情熱(以下, 『情熱』)」( $r = .82$ ), 「学級を運営する自信(以下, 『自信』)」( $r = .77$ ), 「職場での適応(以下, 『適応』)」( $r = .66$ )の3因子構造を持つことがわかり、SGEを月に1回以上実施する教師の「情熱」が高く、かつスーパーバイズを受けた教師は「自信」も高いことが明らかになった。しかし、実施と効果の因果関係や、子どもへの効果と教師への効果との関係が明らかになっていない。そこで、本研究は学校現場において実践研究をおこない、SGEを実施した教師への効果と子どもへの効果を総合的に検討した。

### 〔方 法〕

対象教師:A県B市C小学校 教諭6名(男性:4名, 女性2名; 教職経験年数:0年2名, 1年1名, 2年2名, 3年1名; 平均年齢26.33歳, SD2.88歳)。対象児童:A県B市C小学校 3年生~6年生 205名(3年生2学級, 4年生1学級, 5年生2学級, 6年生1学級, 計6学級)。先行研究(國分ら, 1999; 國分ら, 2004)と予備調査から作成したSGEプログラムを8週間実施した。効果の測定方法として、教師に対しては、「SSLE 尺度」を3回実施し(pre調査・post調査・follow-up調査), さらにインタビューをおこなった。児童に対しては「学級生活満足度尺度」(河村, 1998)を2回実施し、「フィードバックペーパー」および日常の行動の変化を、教師のインタビューから回答を求めた。

### 〔結 果〕

児童への効果として、「学級生活満足度尺度」の「承認」得点が6学級のうち3学級が上昇し、「被侵害」得点は3学級が有意に高くなった。「フィードバックペーパー」からは「ふれあい」「自己発見」を中心とする回答が多く得られた。教師のインタビューからは「ふれあい」や「結束」という内容が述べられた。教師への

効果として、3回の「SSLE 尺度」の結果を分散分析した結果、「情熱」がpre調査 > follow-up調査になり、「自信」「適応」は上昇が見られたものの有意差はなかった。インタビューから、児童理解の向上、子どもとのふれあい、学級経営に役立つ道具を得た実感、が述べられた。教師の効果と児童の効果との関連を回帰分析によって求めたところ、子どもの「被侵害」得点は教師の「情熱」の負の予測因子( $r = -.82$ )になることが明らかとなった。

### 〔考 察〕

今回のSGEプログラムは児童のリレーションを高めるが、規範性(ルール)を高める(「被侵害」得点を下げる)ことができなかった。規範性の低い学級状態においては、日々多くのトラブルが頻発していることが予想され、その対応に追われるにつれて教師のモチベーションが低下することが考えられる。逆に、学級のルール維持・向上は、教師の「情熱」を高めることが示唆された。また、子どもどうしのリレーションが高まっても、教師が高い動機づけに基づいてSGEを実施しない場合、「自信」は高まらず、その動機づけにはエクササイズと教師との適合性、エクササイズと学級実態との適合性、実施時間の確保、実施中・後の子どもたちの反応、という要素が関係していることがわかった。児童の変化とは無関係に、SGEを実施することで一時的に高まる「自信」が存在するが、子どもの成長という裏づけがない場合、やがて低下することがわかった。以上をもとに次のようなモデルが考えられる。

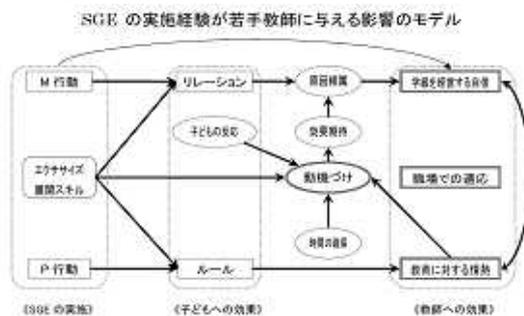


Fig. 1 SGEの実施経験が若手教師に与える影響のモデル図  
〔今後の課題〕

次の5点があげられる。(1)「SSLE 尺度」の信頼性・妥当性。(2)効果の高いSGEプログラムの考案。(3)SGE効果モデル(Fig. 1)の実証的検討。(4)他校種(中・高)の教師を対象とした調査。(5)継続的な調査の必要性。  
キーワード:SGE, ファシリテーター研究, 教師効力感